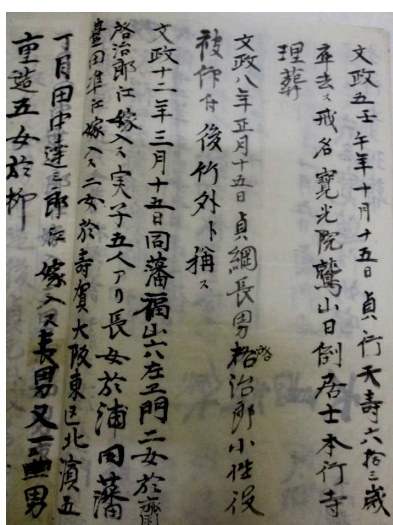


藤井家文書

藤井家は、漢詩人として著名な藤井竹外を輩出した高槻藩士家で、大目付や用人などを勤め、家禄は一五〇石である。藤井家は、元は高槻藩永井家初代直清の兄・尚政の系譜である、大和新庄藩(奈良県葛城市)・永井家の家臣であった。正徳五年(一七一五)、高槻藩五代藩主直英が、大和新庄藩から永井文九郎(後の六代藩主直期)を養子に迎えた際に、藤井兵蔵(貞郷)が付き従い、高槻へ移住した(文書番号38・39)。以後、藤井家は、明治維新まで高槻藩永井家に仕える。

本文書群は、総点数七十四点で、近世文書は十六点、近代文書が五十八点である。最古の史料は、天保四年(一八三三)の「永井直勝由緒書」(文書番号1)で、永井直清の父直勝の由緒を書き留めたものである。

「藤井家略履歴書」(文書番号38)や、藤井家の「略履歴」(文書番号39)、「藤井又一経歴覚書」(文書番号17)などから、藤井家歴代の事跡を辿ると、藤井兵蔵貞郷は、



「略履歴」(文書番号39)

と、藤井兵蔵貞郷は、永井直期に付き従い高槻へ移った際、近習役を勤め、家禄二二〇石を給付されるが、享保二〇年(一七三五)に没している。

その前年、同藩の挑

(挑カ)井氏から養子を迎え、家督相続後は左文貞長と名乗った。安永元年(一七七二)には貞長の嫡男・勇馬が家督相続し、六郎左衛門貞行を名乗る。同藩の関氏から養子に迎えた澤右衛門貞綱から、藩での役職変遷が分かる。貞綱は、享和三年(一八〇三)に家督相続して小姓を勤め、天保十一年(一八四〇)には、用人役と郡奉行を兼務し、その勤功により三〇石を加増され家禄一五〇石となる。

この貞綱の長男が、後に漢詩人として名を馳せる啓次郎啓・吉郎・後の竹外)である。啓次郎は、文政八年(一八二五)に小姓として藩に召し込まれ、その後は鶴之間番などを勤めた。同十二年には、同藩の福山六左衛門の娘・齋と結婚し、二男三女を授かる。天保七年(一八三六)、竹外三〇歳の時に誕生した長男が、槍術の名手・藤井又一(後の貞臣)である。

文久元年(一八六一)、竹外は隠居願を出し、又一へ家督を譲る。隠居後竹外は、京都の三本木(京都御所の付近)に移住し、以降は詩作に没頭する。

「藤井又一経歴覚書」(文書番号17)によると、同年又一は、家禄一五〇石を相続して広間番を勤め、元治元年(一八六四)には使者役に任命される。明治維新後は明治二年(一八六九)に先手者頭役、次いで銃卒隊長に任命されたが、同年十二月に被免されたことが分かる。

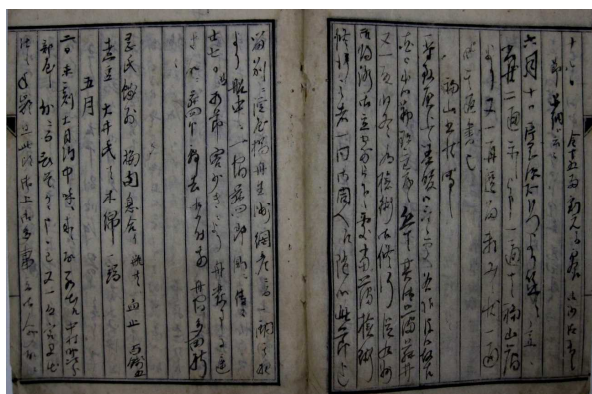
同三年から四年までは、大島流槍術の教師として、皇族の有栖川宮家に仕えた。なお、同四年頃から「貞臣」と名乗っている。同七年には就農を目的に、家禄を明治政府へ返還する「家禄奉還」を行っている。「家禄奉還願」(文書番号18)によると、家禄十四石を奉還し、金九十七円六十二銭八

厘を明治政府から支給されたことが分かる。

「略履歴」(文書番号39)によると、家禄奉還後、河内国交野郡禁野村(枚方市)で茶園や桃の栽培を試み、大阪では組合を結成して蝙蝠傘の骨の製造を試みるが失敗に終わったことが分かる。

ところが、明治十六年(一八八三)に、兵庫県伊丹町の酒造家・小西新右衛門から大島流槍術の教師として招かれた。小西新右衛門は、道場・修武館を立ち上げ、剣術や弓術、薙刀などの一流の師範を迎えていた。

貞臣は、家族三人で伊丹町へ移り住み、大正四年(一九一五)に八〇年の生涯を閉じた。明治維新後の武士が、慣れない商売を始めて失敗する事例は多々あり、貞臣も事業の失敗を経験するが、武術の教授として生涯を終



「藤井竹外日記」(文書番号3)

えた旧藩士の一例として注目される。

本文書群の内、近世史料には、竹外・又一親子の日記が収録される。「藤井竹外日記」(文書番号3)は、竹外が安政二年(一八五五)から同六年まで書き留めた日記で、主な内容は、又一の九州での槍術修行に関する記述である。具体的には、竹外が、又一を九州へ送り出す際に行った資金の工面や、九

州各地で廻国修行を行っている又一からの報告、修行中の又一への仕送り、又一の仕官に伴う高槻への帰還などが記録される。

なお、同六年六月の記事には、備後国福山藩(差出人不詳)から出された書状の写がある。これによると、安政五年の冬、九州から高槻へ向けて帰還中の又一は、福山藩から槍術の師範として招かれ、一時、城下に逗留して槍術の指南を行っていたという。更に福山藩は、又一へ再逗留を頼みこんでいる。自身の所属する藩以外の他藩で、武術の指南役を行っていたことを示す好例であろう。

槍術修行に関する又一の日記が複数伝わる。「藤井貞臣来歴書案」(文書番号13・14)は、又一の生い立ちと、槍術修行のために柳川藩(福岡県柳川市)・加藤善右衛門道場へ向けて出発した又一の旅程を辿ることができる。本史料によると、又一は槍術の他にも馬術、剣術、柔術、砲術を学び、漢学は並木正治郎から学んだとある。また、九州へ向けて出発した又一は、途中の備中国上成村(岡山県倉敷市玉島)では、竹外の学友・森田節斎の別荘に一時滞在するなど、竹外の交友関係を頼りにして九州へ向かったことが分かる。

安政四年(一八五七)の「槍術稽古志録」(文書番号5)は、入塾後の加藤道場での修業や、南九州(肥後・日向国)での廻国修行の様子を記録する。「素笑(突者)毎朝毎夜十分三三百本計突ケハ為二成へし」など、師の加藤善右衛門から受けた教えなども書き留めている。

「修行廻国中日録」(文書番号6)は、安政四年十月二十五日から同年十



「修行廻国中日録」(文書番号6)

二月四日までの南九州(肥後・日向国)と、翌五年の四月六日から五月十八日まで北九州(筑前・肥前)への廻国修行の様子が詳細に記録される。修行先での槍名人との対戦をはじめ、宿泊先での酒宴や名所の観光など、記載は多岐にわたる。なかでも、安政五年四月下旬の長崎滞在の記事では、江戸へ向けて出航する幕府蒸気船や、出島の蘭館、佐賀藩が築造した四郎ヶ島台場(長崎市)について記録し、幕末の長崎の様子を表す記述として興味深い。

「槍術稽古志録」(文書番号5)の翻刻や読み下し文を紹介している。詳しくは参照していただきたい。

又一に関する書状では、「書状案(槍術の現況ニ付)」(文書番号54)が興味深い。年末詳だが、又一が大島流槍術の教師として伊丹町へ移住した明治十六年(一八八三)以降の史料である。又一は、「槍術者は二十年余も絶えてしまい、達者な人は故人、或いは所在が不明となってしまった」、「伊丹町へ移住したものの、小西氏の道場では、槍術稽古はほとんど行われず、撃剣(剣道の前身)や体術(素手の武術)を主に行っている」と、槍術が衰退していく現状を歎いている。明治維新後の旧藩士の意識や、武術のはやりすたりが窺える好史料である。

なお、江戸時代後期の高槻城と城下町を描いた「高槻城絵図」(当館蔵)から、「藤井吉郎」(竹外)の屋敷は、牛頭天王社(現在の野見神社)の北側現在の高槻現代劇場辺りにあったことが分かる。現在、同所には、昭和五十二年(一九七七)に竹外生誕一七〇年を記念して建てられた石碑が立つ。

高槻藩藤井家の中では、幕末の漢詩人・竹外が著名だが、本文書群からは、藤井家歴代の経歴が窺える。また、竹外の子・又一が明治維新を経て、どのような生涯を辿ったのかを知ることができる。明治維新後の士族の動向を知る上で興味深い史料群である。

(芹原義行)

「記録」(文書番号7)では、柳川に加藤道場へ帰還した後の修業の様子を記述する。安政五年九月十日の記事では、父竹外から高槻への帰還を促がす書状が届き、修行道具の片付けや、師の加藤善右衛門への進物を選ぶ様子が記される。又一は、高槻への帰還を前に、師から大島流槍術の免許皆伝を受けており、それにもなう酒肴料も進上している。

なお、NPO法人高槻市文化財スタッフの会(古文書グループ)が刊行した『藤井竹外 藤井又一日記』において、上巻(史料集第五号)では、「藤井竹外日記」(文書番号3)と「槍術廻国修行便覧」(文書番号4)、下巻(史料集第六号)では、「修行廻国中日録」(文書番号6)と「記録」(文書番号7)、

藤井家文書

近世

文書番号	一括状況	文書名	年号	月	日	西暦	差出	宛名	形状	数量	法量	整理番号	備考
1	-	〔永井直勝由緒書〕	天保4	2	-	1833	近藤宗庸	-	縦帳	1	24.5× 16.5	20	
2	-	〔大塩平八郎檄文〕 (写)	天保8	-	-	1837	(某)	(摂河泉播村々庄屋年 寄百姓并小前百姓共)	縦帳	1	24.9× 17.0	38-1	
3	-	〔藤井竹外日記〕	(安政2～ 安政6)	-	-	1855 ～ 1859	(藤井竹外)	-	縦帳 (罫紙)	1	23.0× 16.3	19-1	・内容年代(安政2年～安政6年)。 ・内部に年代の錯簡があり。
4	-	槍術廻国修行便覧	安政2	4	-	1855	藤井竹外カ	-	横半帳	1	12.3× 16.7	42	・中国・四国地方での槍術修行の旅程 を記す。
5	-	槍術稽古志録	安政4	正	-	1857	藤井又一貞臣	-	横帳	1	8.2× 18.4	1	・筑後柳河藩加藤善右衛門の道場での 修業日記。
6	-	修行廻国中日録	安政4	-	-	1857	-	-	横帳	1	8.1× 18.4	41	・前半部は南九州(肥後・日向)、後半 は北九州(筑前・肥前)での槍術修行の 日記。 ・内容年代(安政4年10月～安政5年5 月)
7	-	記録(藤井又一日記)	安政5	-	-	1858	(藤井又一)	-	横帳	1	12.5× 33.8	43	・肥前佐賀藩での修行記録。
8	巻込	〔藤井郁代命名書〕	慶応2	-	-	1866	-	-	(折紙)	1	18.0× 47.2	7-1	・藤井又一の長女が郁代。 ・白紙1枚付属としてあり。
9	挟込	乎数(槍術指南書ニ付)	-	-	-	-	-	-	横半帳	1	12.5× 17.2	46-1	・整理番号46～58は「松印精糖」の木 箱に保管
10	挟込	〔覚〕(槍、太刀、薙刀、 薙刀太刀、鍵槍の本数内訳 ニ付)	-	-	-	-	-	-	一紙	1	17.0× 4.5	46-2	
11	-	乎数(槍術指南書ニ付)	-	-	-	-	貞臣	-	横半帳	1	12.3× 17.2	47	
12	-	〔幕末風聞留〕	-	-	-	-	-	-	縦帳	1	25.7× 17.3	14	
13	-	〔藤井貞臣来歴書案〕	-	-	-	-	-	-	継紙	1	29.0× 90.0	16	・紙背文書あり
14	-	〔藤井貞臣来歴書案〕	-	-	-	-	-	-	継紙	1	31.5× 58.0	17	・紙背文書あり
15	折込	〔永井雅楽等動静風聞書〕	-	-	-	-	-	-	一紙	1	24.6× 32.6	23-1	
16	折込	〔書状断簡〕(槍の仕立て ニ付)	-	-	-	-	-	-	一紙	1	27.2× 13.5	23-2	

近現代

17	-	〔藤井又一経歴覚書〕	(明治5)	-	-	1872	藤井又一	-	-	一紙	1	24.7× 8.7	18	・安政6年から明治2年までの経歴。 ・「申三拾七歳」とあり。
18	-	家禄奉還願(家禄14石御布告ニ基キ家禄奉還仕度候ニ付)	明治7	2	-	1874	島上郡第2区高槻村住藤井貞臣	大阪府知事渡邊昇殿	-	一紙(罫紙)	1	23.1× 31.0	25	・左半分は、11月27日付け「証(金97円62銭8厘家禄奉還資金として下賜されたことニ付)」
19	-	〔書状〕(台湾出兵にともなう新募兵ニ付)	明治7	8	-	1874	大坂権知事 渡邊昇	旧高槻県貴族士族	-	一紙	1	14.3× 27.1	31	
20	折込	〔卒業証書〕(下等小学第8級卒業候事ニ付)	明治8	7	1	1875	第三大区堺県管内第十八中学区 河内中宮小学	堺県士族 藤井郁代	-	一紙	1	19.6× 26.2	49-2	
21	折込	〔卒業証書〕(下等小学第7級卒業候事ニ付)	明治8	7	3	1875	第三大区堺県管内第十八中学区 河内中宮小学	堺県士族 藤井郁代	-	一紙	1	19.6× 26.3	49-1	
22	折込	〔卒業証書〕(下等小学第6級卒業候事ニ付)	明治9	4	28	1876	第三大区堺県管内第十八中学区 河内中宮小学	堺県士族 藤井郁代	-	一紙	1	19.6× 26.3	48-3	
23	折込	〔卒業証書〕(下等小学第5級卒業候事ニ付)	明治9	11	16	1876	第三大区堺県管内第十八中学区 河内中宮小学	堺県士族 藤井郁代	-	一紙	1	19.1× 26.0	48-2	
24	折込	〔卒業証書〕(下等小学第4級卒業候事ニ付)	明治10	5	6	1877	第三大区堺県管内第十八中学区 河内中宮小学	堺県士族 藤井郁代	-	一紙	1	19.5× 25.6	48-1	
25	-	姓名録(住所・人名録などの内容ニ付)	明治13	11	-	1880	-	-	-	横帳	1	6.4× 17.2	53	
26	-	藤井家重代村正剣略履歴	明治17	12	-	1884	藤井貞臣	-	-	一紙(罫紙)	1	23.0× 32.2	32	
27	-	〔年賀状案文〕	明治22	1	20	1889	-	-	-	一紙	1	12.5× 12.4	29	
28	-	転寄留御届(母、神戸の藤井貞元方へ都合により転居することニ付)	明治22	2	-	1889	摂津国川辺郡伊丹町1477番地士族 藤井貞臣	伊丹町戸長 徳永治兵衛殿	-	一紙(罫紙)	1	23.1× 31.0	24	
29	-	人員帳	(明治25以降)	-	-	1892 ~	河内国第三大区四小区交野郡禁野村第九拾四番屋敷 藤井貞臣	-	-	縦帳	1	26.4× 18.9	12	
30	封筒	〔封筒〕	明治28	9	28	1895	大阪府下嶋上郡高槻村長田重遠	摂津国伊丹小西新右衛門殿方 藤井貞臣殿	-	封筒	1	7.6× 9.2	15-0	
31	封筒	〔書状〕(武徳会鎗術師範招待ニ付)	明治28	9	27	1895	重遠	貞臣様	-	一紙	1	17.9× 24.0	15-1	

32	封筒	〔書状〕（先頃ハ永井家再料相廻ニ付）	(明治28)	9	27	1895	(重遠)	(貞臣様)	一紙	1	8.1×7.4	15-2	
33	-	[]刀術[]	明治35	1	-	1902	□(藤か)井[]	-	(横半帳)	1	12.3×17.1	9	
34	-	頼家伝（お伽山陽伝などニ付）	(明治45)	(7)	(1)	1912	徳永槌之進	-	縦帳	1	24.4×16.5	13	・お伽山陽伝（明治45年7月1日～5日までの中国新聞切抜）および山陽先生八十五回忌、伊藤博文暗殺などの内容。
35	-	色々帳（十二日 三銭 豆ニ合などの品代金銭勘定ニ付）	大正2	1	-	1913	藤井	-	横帳	1	12.3×31.0	40	・冒頭の数丁欠。大正6年頃などの記録あり。
36	-	〔三松氏系譜〕	大正7	秋	-	1918	百済王禅広四十四世三松俊雄	-	縦帳	1	28.0×19.9	37	
37	-	領収書（金1200円、電話番号譲渡金として領収ニ付）	昭和18	12	19	1943	中村喜代一（印）	藤井庄三郎殿	一紙	1	23.4×31.5	51	
38	-	藤井家略履歴書	-	-	-	-	藤井家	-	縦帳	1	25.0×17.2	10	・表題に「（見消）藤井家畧系図」。内容年代は正徳5年～明治25年（1715～1892）。
39	-	略履歴（藤井家）	-	-	-	-	-	-	縦帳	1	23.9×16.5	27	・藤井家の略歴。内容年代は正徳5年～明治25年（1715～1892）。
40	巻込	〔書状〕（過日の御礼として菓子進呈することニ付）	-	5	20	-	池上治三郎	藤井貞臣様	一紙	1	18.0×59.8	7-2	
41	巻込	〔書状〕（刀剣鑑定依頼ニ付）	-	1	19	-	三松三郎	藤井貞臣	一紙	1	15.2×56.4	7-3	・三松三郎は、整理番号37の系図内に三松俊忠としてあり。
42	巻込	〔書状〕（病気快然見舞を贈呈することニ付）	-	5	20	-	池上治三郎	藤井貞臣様	一紙	1	17.9×38.0	7-4	
43	-	衣類ならびに道具向覚	-	-	-	-	-	-	横帳	1	16.0×40.0	8	・水引にて綴、祝儀関係カ
44	-	親族書	-	-	-	-	-	-	罫紙	1	22.5×31.4	11	
45	挟込	〔口上届〕（私倅又一、田浪氏以外にも罷出修行致させ申度候ニ付）	-	-	-	-	-	-	一紙	1	14.2×17.2	19-2	
46	-	〔書状写〕（團扇堂へ遣わした長田重遠書簡ニ付）	-	8	16	-	藤井貞臣	長田重遠様	一紙（罫紙）	1	16.5×24.2	21	
47	-	〔書状写〕（現今身上之義ニ付厚配依頼）	-	10	22	-	藤井貞臣	中村元嘉様	一紙（罫紙）	1	22.5×31.1	22	
48	-	〔書状〕（先生の一件などニ付）	-	7	21	-	三松信優拜	藤井大先生机下	一紙	1	15.9×70.5	26	

49	-	〔藤井家縁者書付断簡〕 (小石川区小石川水道町8番地 中村元嘉などの内訳ニ付)	-	-	-	-	-	-	一紙 (罫紙)	1	22.3× 6.6	28	
50	-	奉賀新正(正月慶賀のあいさつニ付)	-	1	3	-	池上治三郎	藤井貞臣殿	一紙	1	16.7× 60.3	30	
51	-	口上(松葉進呈ニ付)	-	菊秋 (9月)	5	-	-	-	一紙	1	16.1× 39.0	33	・内容の一部後欠。
52	-	〔書状〕(三子結婚式・團扇堂への差出金拾圓落手の件ニ付)	-	10	13	-	結城秀伴	藤井貞臣様	一紙	1	15.7× 52.0	34	
53	-	〔書状〕(結城秀伴三子縁談・送籍之件ニ付)	-	9	11	-	結城秀伴	藤井貞臣様	一紙	1	(15.7× 76.3)	35	・破損により、3つに分割されている。
54	-	〔書状案〕(槍術の現況ニ付)	-	5	18	-	藤井貞臣	高島健太郎様	一紙 (罫紙)	1	24.4× 33.3	36	
55	挟込	〔藤井又一剣槍術修行一覽〕	-	-	-	-	-	-	一紙	1	6.5× 34.1	38-2	・安政4年～文久2年までの槍術修行の記録。 ・「既ニ行年六十有余」とあり。
56	-	〔金銭勘定帳断簡〕(合計8円55銭 8月21日入 外山賢作などの内容ニ付)	-	-	-	-	-	-	一紙	1	12.2× 33.5	39	・計3枚あり。
57	-	〔藤井竹外印影十七種〕	-	-	-	-	-	-	一紙	1	23.9× 32.9	44	・白紙1枚付属。藤井竹外の落款印を押印したもの。計17個押印されている。
58	-	〔書〕(遠仁者疎道不久者)	-	-	-	-	-	-	一紙	1	34.3× 129.0	2	
59	-	〔書〕(南無阿弥陀仏)	-	-	-	-	静松謹書「印」	-	一紙	1	34.1× 134.0	3	
60	-	〔短冊〕	-	-	-	-	升	-	(短冊)	1	36.2× 6.0	4	
61	-	〔短冊〕	-	-	-	-	子規	-	(短冊)	1	36.2× 6.0	5	
62	-	借用金証書(断簡)	-	-	-	-	-	-	一紙	1	24.0× 32.5	50	・後欠。返済期限が大正3年9月8日となっている。
63	-	〔御祝扇子料包紙〕(金50銭ニ付)	-	-	-	-	目下部儀介、岡村久兵衛	-	(包紙)	1	32.4× 45.2	52	
64	-	〔姓名録断簡〕(備前国朝口郡味野村郡長岡山ヨリ九厘 東馬安太郎などの内容ニ付)	-	-	-	-	-	-	一紙	1	11.7× 16.3	54	
65	-	〔姓名録断簡〕(高槻 芥川勝寿などの内容ニ付)	-	-	-	-	-	-	(罫紙)	1	5.3× 16.1	55	

66	-	改正国明集	-	-	-	-	-	-	横帳	1	7.4× 14.5	56	
67	包紙	残る影（包紙）	-	-	-	-	-	-	包紙	1	31.5× 24.0	57-0	
68	包紙	受領書（金100円、新体制ニ 付諸費用並ニ寺有財産ツミ 五等御手伝御有志などの内 訳ニ付）	昭和16	6	9	1941	大阪府三島郡高槻町古 曾部乾性寺住職 藤井 慈山（印）	藤井庄三郎殿	（罫紙）	1	17.0× 22.3	57-1	
69	包紙	〔爆弾三勇士の歌〕	-	-	-	-	團扇堂竹朋	-	（罫紙）	1	23.7× 16.4	57-2	
70	包紙	〔藤井竹朋俳句〕（なつか しき 遺墨を拝す 桜か な）	-	-	-	-	團扇堂竹朋	-	（罫紙）	1	23.2× 16.2	57-3	
71	包紙	〔絵葉書〕如意輪堂の扉 （小楠公箭の鏃歌）	-	-	-	-	-	-	葉書	3	14.2× 9.1	57-4	
72	包紙	〔絵葉書〕（吉野懐古 藤 井竹外先生筆）	-	-	-	-	-	-	葉書	1	14.2× 9.1	57-5	
73	封筒	〔封筒〕	-	-	-	-	平田	藤井竹雄様	（封筒）	1	20.5× 8.4	6-0	
74	封筒	〔手紙〕（「太田持資養を 備るの図」漢詩の書き下し 文および現代文）	-	-	-	-	（平田）	（藤井竹雄様）	（原稿用 紙）	1	25.7× 18.2	6-1	